現代文 第6回『待つ』

　　班　　　　番　氏名

【はじめに】

👤太宰 治 (1909-1948) (39歳没)

・無頼派…近代の文学に批判的な作風

・作品の中で描かれる主人公像…無職・無法・どうしようもない人物

☆女性の「語り」…『待つ』『ヴィヨンの妻』『女生徒』／『斜陽』『桜桃』『人間失格』

【太宰が生きた時代】

1909年 誕生

1923年 青森中学校入学　関東大震災

1925年 普通選挙法・治安維持法

1928年 左翼運動に参加

1930年 東京帝国大学文学部に入学

◎田部シメ子と自殺未遂を図る

1935年 第一回芥川賞を逃す

鎮痛剤の中毒がひどくなり、強制入院させられる

◎小山初代と自殺未遂

1939年 石原美知子と結婚 第二次世界大戦勃発

1945年 第二次世界大戦終結

1947年 「斜陽」が連載開始

1948年 「人間失格」が連載開始

玉川上水で山崎富栄と入水

【本文の基本情報】

|  |
| --- |
| ☆「私」について  ・年齢・性別・・・・・・（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  ・精神状態・・・・・・・（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  ・生活の場・・・・・・・（　　　　　）のその小さい（　　　）／（　　　　）  ☆時代について  ・時代背景・・・・　戦前　・　戦中　・　戦後  →「周囲がひどく緊張してまいりましてからは」  ☆「語り」について  ・距離感・・・・・・・・（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  ・話し方・・・・・・・・（　　　　　　　）調。文が（　　　　　　　　　　）。  ・自己否定・・・・・・・（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  ☆「待つ」という行為について  ・「待つ」対象・・・・・　人　・　もの　／（　　　　　　　　　　　　　　）  →「ただ、もやもやしている」  →対象のヒント・・・・・（「　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」） |

【情報から読み取れること】…大学生の読み取り

（小倉の読み取り）

①後半になるにつれて「です・ます調」から「だ・である調」の多い文になっている。

②後半になるにつれ文が短く切れている。

③最後の2段落では考えを出しては否定する箇所が続いている。

⇒主人公が後半になるにつれて感情的になっているのではないか。

（濱部の読み取り）

①「私は、人間を嫌いです。いいえ、怖いのです。」

②「身を粉にして働いて、直接に、お役に立ちたい気持ちなのです。」

③「どなたか、ひょいと現れたら！という期待と、ああ、現れたら困る、どうしようという恐怖」

④毎日ベンチに腰かけて、たくさんの人が行き交う様子をじっと見ている。

⇒周囲に上手く溶け込めない自分に自信がないため 人と関わることを避けようとしているが、本当は「もっと人(社会)と関わりたい！」という想いを秘めているのではないか。

　⇓

☆上の大学生の例を参考に、情報をつなげて、自分なりの読み取りをしてみよう！

|  |
| --- |
|  |

【語り合いメモ】班ワークで出た意見を書いておこう！

|  |
| --- |
|  |

　⇓

【疑問に思ったところ】ずっと不明な点、語り合ってモヤモヤした点を挙げてみよう！

☆疑問の視点

例えば…「私の行動・考え」「作者（太宰）」「時代背景」「待つという行為」「物語の展開」など

|  |
| --- |
|  |